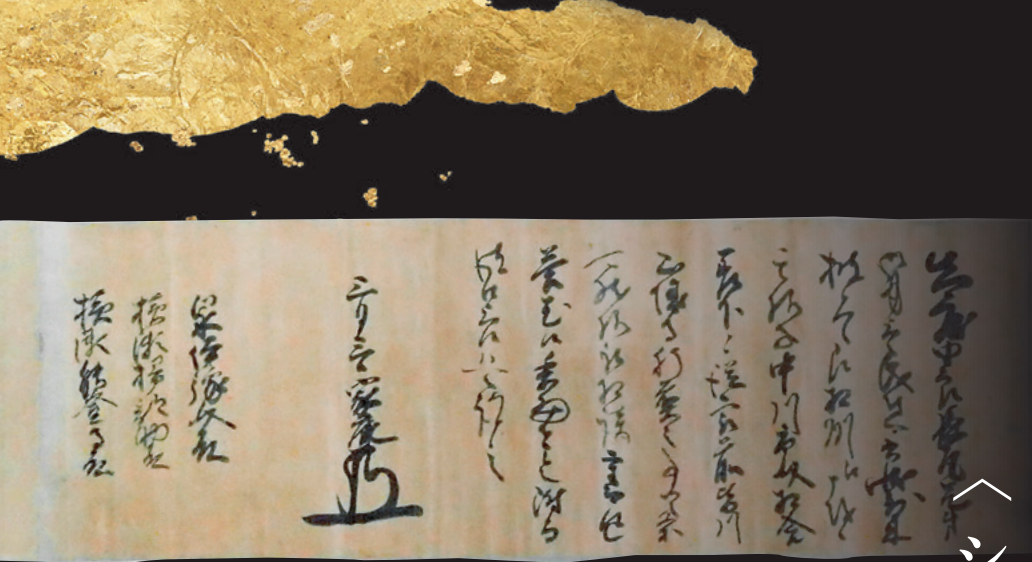


# 関東徳川史観と 「天正十八年問題」

〈シリーズ・地域史の画期を問い直す I〉



## 2023.9.23 [土・祝]

13:00 ~ 16:00

参加費 500円 (大学生以下無料)

会場 群馬県立女子大学 講堂

定員 先着 200名

\*事前申し込みが必要です。

### 参加特典

本シンポジウムの記録集となる地域学ブックレット・群馬の歴史と文化遺産 VOL.13『関東徳川史観と「天正十八年問題」〈シリーズ・地域史の画期を問い直す I〉』(2024年度刊行予定)を贈呈します。  
※配布方法は別途ご案内します。

### ◎ 講演 <13:10~14:50>

「天正十八年」以前の徳川家康と関東

群馬県立女子大学 教授 築瀬 大輔

「天正十八年問題」からみた徳川氏家臣の本貫地

行田市郷土博物館 学芸員 澤村 怜薫

土豪と郷村にみる「天正十八年問題」

東京都江戸東京博物館 学芸員 小酒井 大悟

石造物からみた「天正十八年」の前後

(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
資料活用部整理課長 村山 卓

### ◎ パネルディスカッション <15:05~16:00>

「天正十八年は時代の画期なのか  
—地域史のグラデーションを読み解く—」

パネリスト 澤村 怜薫 小酒井 大悟  
村山 卓

コーディネーター 築瀬 大輔

お申し込み・お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係

〒370-1193

群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

電話：0270-65-8511 (大学代表)

FAX：0270-65-9538

E-mail：gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp



(申し込みフォーム)

第一部

第二部

# 関東徳川史観と「天正十八年問題」

## 〈シリーズ・地域史の画期を問い直す I〉

徳川家康が関東に入封したのは天正18年（1590）である。この年、豊臣秀吉によって小田原北条氏が滅ぼされ、関東に新しい知行割りが実施され、これによって天下人秀吉による全国統一が達成されたのである。秀吉から北条氏の旧分国を与えられた徳川家康は江戸を新たな本拠にして国づくりを始め、13年後には天下人となる。このように、国家史・体制史的な視点から見ると、関東に新秩序が構築された天正18年の画期性は自明であるように思われる。こうした歴史観を仮に関東徳川史観としてみよう。

関東地方の多くの自治体では県史・市町村史などの歴史書を編纂してきたが、その多くは天正18年を画期とする関東徳川史観に立っている。ここでは、「中世」が天正18年を超えて叙述されることはあまり無く、「近世」が天正18年を遡って叙述を始めることは皆無に等しい。しかし、地域史の視点からはこうした分野には問題がある。例えば、北条氏の国づくりや村づくりが徳川氏の国づくり

や村づくりにどのような影響を与えたのかが明らかにならない。また、近世の関東の村々には北条時代からの由緒をもつ百姓が普遍的に存在し、中には北条氏から認められた権益を証明する文書を所持する家もあるのだが、彼らのように天正18年以前の由緒を尊ぶアイデンティティの成立と継承を歴史的に位置づけようとする研究が進まない。中世から近世への移行を考えると、変化だけでなく、連続性を捉える視点をもたないと、地域は歴史的思考の世界から置き去りにされてしまう。これが「天正十八年問題」である。

本シンポジウムでは、地域の主体性を明らかにすることを本旨とする群馬学の立場から、16世紀から17世紀をひとつの時代として捉える中近世移行論を念頭に置きつつ、天正18年を中近世の画期とみなす関東徳川史観を相対化し、地域社会や地域住人を主人公とする歴史像構築の可能性について知見を交換するものである。

## 講師プロフィール

澤村 怜薫 行田市郷土博物館・学芸員 さわむら れいか / Reika Sawamura

1986年 東京都足立区生まれ  
駒澤大学大学院人文科学研究科歴史学専攻博士後期課程退学  
日本近世史 博士（歴史学）  
鎌倉市建長寺史編纂委員会調査員、大和市歴史資料調査会調査員、八街市史編さん委員会近世部会専門委員などを経て、2013年より現職。  
論文に「近世における旗本家本質地の形成と特質」（『駒沢史学』81、2013年）、「近世後期、旗本家の菩提寺と葬送儀礼」（『埼玉の文化財』63、2023年）、担当展覧会に『鷹狩と忍城』（行田市郷土博物館、2018年）、『天正十八年～関東の戦国から近世～』（同館、2022年）など。  
埼玉県史料叢書近世部門調査委員、さいたま市史編さん委員会近世部会調査員、駒澤大学非常勤講師など。

小酒井 大悟 東京都江戸東京博物館・学芸員 こさかい だいご / Daigo Kosakai

1977年 新潟県津南町生まれ  
一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了  
日本近世史 博士（社会学）  
小平市史編さん調査専門委員を経て、2013年より現職  
著書に『近世前期の土豪と地域社会』（清文堂出版、2018年）、共編著に『近世村の生活史—阿波・淡路の村と人』（清文堂出版、2020年）、論文に「鹿島屋東店の慶事」（『東京都江戸東京博物館紀要』11、2011年）など。  
津南町文化財調査審議会委員

村山 卓（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・資料活用部整理課長 むらやま たく / Taku Murayama

1980年 茨城県つくば市生まれ  
立正大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程単位取得退学  
考古学 修士（文学）  
台東区、葛飾区、松戸市教育委員会での埋蔵文化財調査、東京大学史料編纂所学術支援職員などを経て、2013年より現職  
著書に『板碑から中世鎌倉を考える』（第2期大三輪龍彦基金研究報告、2013年）、共著に『板碑の考古学』（高志書院、2016年）、『中世石工の考古学』（高志書院、2019年）、『熊谷市史調査報告書 中世の石造物』（熊谷市教育委員会、2021年）、『新編立川市史調査報告書、古代中世の考古・石造物・美術工芸』（立川市教育委員会、2023年）など。  
松伏町史編さん委員会考古部会専門調査員、東京大学史料編纂所共同研究員、青山学院大学非常勤講師。

築瀬 大輔 群馬県立女子大学・教授 やなせ だいすけ / Daisuke Yanase

1965年 群馬県伊勢崎市生まれ  
國學院大学大学院文学研究科博士課程後期修了  
日本中世史 博士（歴史学）  
群馬県立板倉高等学校教諭、県教育委員会文化財保護課、県立歴史博物館学芸員を経て、2018年より現職。  
著書に『小田原北条氏と越後上杉氏』（吉川弘文館、2022年）、『関東平野の中世』（高志書院、2015年）、『上野の戦国地侍』（みやま文庫、2012年）、共編著に『中世の北関東と京都』（高志書院、2020年）、『北関東の戦国時代』（高志書院、2015年）、共著に『戦国人—上州の150傑—』（上毛新聞社、2021年）など。  
群馬県文化財保護審議会専門委員、群馬歴史資料継承ネットワーク（ぐんま史料ネット）代表。

## 参加特典

本シンポジウムの記録集となる地域学ブックレット・群馬の歴史と文化遺産 VOL.13『関東徳川史観と「天正十八年問題」(シリーズ・地域史の画期を問い直す I)』（2024年度刊行予定）を贈呈します。  
\*配布方法は別途ご案内します。

## 書籍展示販売

会場にて、出演者著書、関連書籍の展示販売を行います。協力：戸田書店様名店

## 参加申し込み方法（事前予約が必要です）

定員 200名

次の①・②・③のいずれかの方法で、9月21日（木）までにお申し込みください。

### ① インターネット〈推奨〉

大学ホームページまたは右記QRコードから参加申し込みフォームにアクセスし、参加者登録を行ってください。



### ② メール〈推奨〉

下記メールアドレス宛に「第43回群馬学連続シンポジウムに参加希望」、「氏名」、「住所」、「電話番号」を明記して送信してください。  
E-mail : gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp（事務局連携推進係まで）

### ③ 電話

第43回群馬学連続シンポジウムに参加希望の旨及び、「氏名」、「住所」、「電話番号」をお伝えください。  
◎受付時間/平日9:00から17:00まで ◎電話番号/0270-65-8511（大学代表）

イベントメールリストに登録を!

インターネット、またはメールでお申し込みをされると、群馬学センターイベントメールリストに登録され、群馬県立女子大学や群馬学センター、または後援・協賛団体等が主催する講演会・シンポジウムなどの情報をいち早く受け取ることができます。この機会にぜひ、群馬学センターイベントメールリストにご登録ください。

お問い合わせ

群馬県立女子大学事務局連携推進係

〒370-1193 佐波郡玉村町上之手1395-1

・TEL/0270-65-8511 ・FAX/0270-65-9538

・E-mail/gunmagaku-center21@mail.gpwu.ac.jp ・WEB ⇨

